

# 金子耕式の **その7** ファミリートーク

北海道と沖縄県にて放送中!!



## ■ 子供のびのびと育てるには ■

逆説的に聞こえるかもしれませんが、子どもたちがのびのびと個性や能力を伸ばして行くには、親や先生たちの適切な指導や制限が不可欠です。

「一才になつたばかりの男の子を持つ若いお母さんが言いました。『うちの子は、アイスクリームが大好きなんです。離乳食をあげてもすぐ吐き出してしまふので、最近アイスクリームばかり食べさせてるんです』さて、どう思いますか。これは極端な例かもしれませんが、子どもの嫌がることはさせず、好きなことなら何でも無制限にさせてあげることが、個性を大切に育てるのびのびと育てることだと思っている親たちがとても多いのです。

でも、ちよつと考えてみてください。あなた自身は、自分が持っている個性や才能を正しく評価し、それを最大限に伸ばすために常に自ら進んで努力し、怠けたり誘惑に負けたりすることなく、しっかりと自己管理をしながら自分を伸ばしていくことができますか？それは、とても難しいことでしょう。

例えば、どんな優れたスポーツ選手でも、良いコーチがいなければ、よい成績を納めることは出来ないのです。弱点を見抜き、怠けることを許さず、時には厳しく、時には優しく励ましてくれる良き指導者が必要なのです。まして、まだ人生経験の乏しい子

どもたちは、親や先生たちの適切な指導なしでは、立派な大人に育っていくことなどできないのです。

## ■ 世界に一つだけの花を どう咲かせるか ■

自分の子どもの個性を大切に育て、のびのびと育ててやりたいと考えるのは、親なら誰でも願うことでしょう。でも、そのためには具体的にどうしたら良いのでしょうか。

2003年に大ヒットした「世界に一つだけの花」をご存知ですか。

歌詞をかいつまんでご紹介すると、

花屋の店先に並んだ

いろいろな花を見ていた

どれもみんなきれいだね

どれが一番だなんて

争うこともしないで

誇らしげに胸を張ってる

そうさ、ほくらは

世界に一つだけの花

その花を咲かせることだけに

一生懸命にならばいい

……という歌でした。

さて、なぜこの歌を紹介したかと言うと、子どもたちの個性を尊重して、のびのびと育てることを提唱する人たちが、この歌の真意をしばしば間違えてとらえて引用するからです。

彼らは、「子どもに嫌がることをさせたり、他の人と競争させることは良くない」と強調します。

でも実際、この歌の作者である横原敬之さんは、「例えば、運動会のか

けっこなどで、順位をつけずに競争の要素を排除しようとするなんて馬鹿馬鹿しい」と言っています。横原さんは、誰もがみな素晴らしい個性や能力を持っているのだから、それを最大限に発揮できるように、できる限り努力すべきだと言っているのです。

だから、他の人が頑張っているのをみて、よし、自分も自分の力で頑張ろうと考えるのは悪いことではないし、たとえ嫌いなことでも、必要ならば逃げずに取り組むことが大事なのです。

子どもを個性的にのびのびと育てるといふのは、ただやりたいようにさせておくことではありません。時には厳しく訓練し、時には優しく励ましなが、その子ならではの個性や才能をできる限り伸ばしてやることなのです。

## 「家族に贈るとっておきの話」

Vol.2

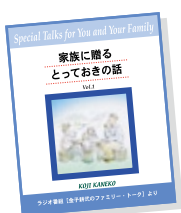


新発売

四六版変形上製本  
●定価1,575円

## 「家族に贈るとっておきの話」

Vol.1



四六判変形上製本  
●定価1,575円

ラジオ番組「金子耕式のファミリートーク」を編集したコラム集。FFJのスタッフで元アナウンサーの金子耕氏が自らの子育て経験を交え、日本の現状とニーズに合わせたショートメッセージをお届けします。